

2. 内科系臨床研修プログラム

(内科・呼吸器科・消化器内科・神経内科・循環器科・血液内科)

【総論】

1 目的と特徴

臨床医としての土台である内科学の基本的知識と技術および診断・治療に関する適正な思考過程を学び応用する。また、医学および医療の社会的役割を認識しつつ、患者に対する対応・接遇などの仕方を通して信頼される医師となることを目的とする。

当院の内科系診療科は、日本内科学会認定医制度教育病院の資格を有し、当院での経験症例は将来内科認定医資格を取得する際に有効である。当院では内科・呼吸器科・消化器科、神経内科、循環器科、血液内科にて研修を行う。当院6ヵ月の期間中、内科・呼吸器科・消化器科・神経内科・循環器科・血液内科の6科の協同研修スケジュールの中で、頭記の目的達成を図る。

具体的には、後述の内科系週間研修プログラムへの参加の他に、

- 1) 入院患者の主治医である指導医の元で担当医として臨床研修を行う。
- 2) 各部長回診や症例検討会に参加し、担当医としての受持患者の病状分析と解説を行う。
- 3) 各診療科の特徴的な検査を見学、さらには技術的な実地研修を行う。
- 4) 曜日を定めて、救急係医の指導、管理の元で日中および夜間(17:15～8:30)の救急治療を担当する。
- 5) 外来での問診、必要な検査指示の判断訓練を行う。
- 6) 後述プログラム以外に、月1回内科系合同勉強会(月曜日17時～)が開催されるので参加・症例呈示し、その他各科の抄読会等にも随時参加する。
- 7) 地域の開業医との協力の中で病診連携の会に参加し、トピックや話題について情報の共有化をはかる。

2年間の当院研修期間が終了後、内科系臨床医師を希望する者に関しては、知識修得度、技術度および医師としての人格的適性度が十分に満たされている場合は、後期臨床研修医・嘱託として採用され得る。

2 学会による施設認定

日本内科学会認定医制度教育関連病院

日本糖尿病学会認定施設

日本呼吸器内視鏡学会認定施設
 日本消化器病学会認定施設
 日本消化器内視鏡学会認定施設
 日本神経学会教育関連施設
 日本循環器学会認定教育関連施設

3 研修の評価法

日本内科学会、認定内科専門医制度研修カリキュラムに準じて自己評価するとともに、指導責任者・指導医によって知識および修得度、カルテ記載の適性度、患者への対応などを共同評価する。

4 内科系研修プログラム（*必修項目）

[内]：内科 [循]：循環器科 [呼]：呼吸器科 [消]：消化器科 [神]：神経内科
 [血]：血液内科

	午前	午後
月	腹部エコー [内] 内視鏡 [消]	心エコー [循] ドレッドミル [循] *入院患者検討会 [内・呼] 内視鏡検討会 [消]
火	心エコー [循] *内視鏡検査 [消]、	*部長回診 [内・呼] 肝癌局所療法 [消] 心カテーテル検査 [循]
水	内視鏡 [消] 腹部エコー [内]	心エコー [循] 大腸内視鏡 [消] *入院患者検討会 [神] *部長回診 [神] 電気生理学検査 [神]
木	内視鏡 [内] *腹部エコー [消] 負荷心筋シンチ [循]	心カテーテル検査 [循]
金	腹部エコー [消] 消化管造影 [消] 心エコー [循]	*気管支鏡 [呼] *部長回診 [消] 入院患者検討会 [消] 肝癌局所療法 [消] ドレッドミル [循]

【各論】

5 診療科別研修目標

[内科]

ジェネラル・メディシンとしての幅広い内科疾患分野の知識と技術の習得をめざす。

- 1) 糖尿病においては、日本糖尿病学会認定施設として多種多様な病態を経験し、検査計画のたて方や解釈・治療法選択基準・経口薬やインスリンの投与ノウハウ・

急性および慢性合併症などにつき理解する。

- 2) 消化器疾患については（消化器科に専門研修を委ねるが）、上部・下部消化管内視鏡検査、腹部エコーの習得、CT・MRI画像読影、消化器疾患への適切な治療を習熟する。
- 3) 循環器疾患は（循環器科での研修に専門領域を委任するが）、心エコーの検査法と解析、心不全症例へ心機能評価・治療など一般内科医としての臨床研修を実践する。
- 4) 血液疾患は（血液内科に専門研修を委ねるが）、骨髄穿刺の技術習得、血液・造血疾患に関する適切な診断が下せ、悪性リンパ腫などの症例につき、計画的な検査・治療を習熟する。
- 5) 諸種感染症に対する適切な診断と治療について実践する。
- 6) その他、腎疾患や内分泌疾患等についても正しい診断と治療を習得する。
- 7) 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持てるようになる。

[循環器科]

心血管系患者の診療にあたり、病歴・身体所見を丁寧にとり、原因疾患を鑑別できるように診断プロセスの構築を修得する。また、緊張性の高い疾患については、患者ならびに家族に十分な説明ができ、納得して検査・治療を受けていただくようなインフォームドコンセントの重要性を身に付ける。

- 1) 虚血性心疾患が増加しているため、その診断・検査・治療が理解でき、計画的に診察を進めることができる。緊急検査・治療（カテーテルによる）にも対応できるようトレーニングする。補助循環装置の使用についても適応・合併症・禁忌を理解できる。
- 2) 不整脈については薬剤の使用法、ペースメーカー治療の適応と手技を理解する。
- 3) 高血圧の標準治療を修得し、EBMにもとづいた管理を修得する。
- 4) 心エコー、トレッドミル運動負荷試験、負荷心筋シンチなどの検査法、適応、解釈が理解でき、検査を実施できる。
- 5) 心不全症例に対する原因に即した診断・治療のアプローチが理解でき、各種薬剤の効能、禁忌・副作用を認識しつつ、安全に使用できる。

[呼吸器科]

日本呼吸器内視鏡学会認定施設として呼吸器疾患の紹介例も多く、かつ質の高い医療を続けている。

- 1) 気管支鏡、CTガイド下肺生検、胸腔鏡などの検査が可能で、CT等の画像とあわせて諸種呼吸器疾患の診断に習熟する。
- 2) 人工呼吸器の管理を通じて呼吸生理学を学習する。

- 3) 肺癌の標準的治療に精通する。
- 4) 呼吸器感染症を通じて適切な感染対策や抗生剤の選択を考える。
- 5) 各種呼吸器疾患をガイドラインに則した治療を行う。

[消化器科]

日本消化器病学会および日本内視鏡学会認定施設としての多くの症例を背景に、消化器疾患の診断と治療に必要な体系的知識と基礎的技術を習得し、指導医と連携して患者の治療にあたる。

- 1) 代表的な消化器疾患について、身体所見の観察、検体検査結果の解釈および超音波検査・CT・MRI・RI等の画像診断での特徴的所見を理解する。
- 2) 上部および下部内視鏡検査・レントゲン検査・超音波検査・CT・MRI・RI等の画像診断の原理と安全に検査を行う手順および機器の適切な取り扱い等を理解する。
- 3) 消化器疾患の内視鏡検査・レントゲン検査の適応・禁忌を理解する。
- 4) 胃管・イレウス管の挿入、腹腔穿刺の基本的な手技を指導医の元で安全に施行する。
- 5) 消化器疾患によく用いられる薬剤について、効能・禁忌・副作用等を理解し、安全に使用できる。

[神経内科]

病棟患者を中心に、神経症状のある患者の病変部位・原因疾患について適切に診断し、それに応じた治療法を選択する必要があるため、臨床神経学のみならず神経解剖学・神経生理学・神経病理学・高次脳神経心理学についても学習する。また、治療面のみならずリハビリテーションおよび介護の理解の必要性についても習熟する。

- 1) 正確な病歴聴取と正しい内科所見・神経所見をとり、カルテに記載できる。
- 2) 神経内科関連の検体検査を正しく解釈する。
- 3) 頭部および脊椎のX線・CT・MRI・脳血流シンチなどの画像検査を正しく読影できる（正常と異常の鑑別）。
- 4) 神経内科関連の内服薬・注射薬の正しい使い方を習得する。
- 5) 髄液検査の手技およびその所見を正しく解釈する。
- 6) 入院患者の病状を早く把握し、すみやかな対処を行う。患者・家族に十分な説明ができる。
- 7) 慢性神経疾患患者の治療とフォローおよびリハビリテーションの正しい指導ができる。
- 8) 神経内科救急患者の診断と治療について学び、実践できる。

[血液内科]

血液内科診療を通して臨床腫瘍学を学ぶのみではなく、化学療法による副作用に対

応しながら内科全般の知識を動員した全身管理や感染症・電解質異常への対応、症状緩和ケアなどを習得する。広範囲にわたっての知識と処置能力が要求され、全人的医療を実践できる臨床医を目指す。

- 1) 頻度の高い血液疾患（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、貧血、出血疾患）に対する診断と治療の基本を習得する。
- 2) 血液悪性腫瘍の診断や抗癌剤の使用法を学ぶ。
- 3) 出血傾向や血栓症に対する、診断と治療の基本を習得する。
- 4) 補助療法：抗生物質の使用法、サイトカイン療法、輸血学を学ぶ。
- 5) 無菌操作や造血幹細胞移植の実際を体得する。
- 6) 末梢血および骨髄標本の読み方を習得する。
- 7) 癌治療のインフォームドコンセントおよび緩和ケアを体得する。